

重点課題 4 多様な人々が活躍できる社会を実現する

重点課題の考え方

セブン＆アイグループは、人種や国籍を始め、性別や年齢、宗教、障がいの有無、性的指向などさまざまなバックグラウンドや価値観を持つ多様な人々が活躍できる社会を実現していくことが重要だと考えています。

異文化理解の促進や、未来社会を担う次世代の応援などを実施することは、社会全体の発展だけではなく、社会から求められる商品・サービスの提供にもつながります。当社グループだけでなく、社会全体がさまざまな価値観やライフスタイルを認め合うことのできるように、取り組みを進めていきます。

関連する方針

[セブン＆アイグループ企業行動指針](#) >

[セブン＆アイグループ人権方針](#) >

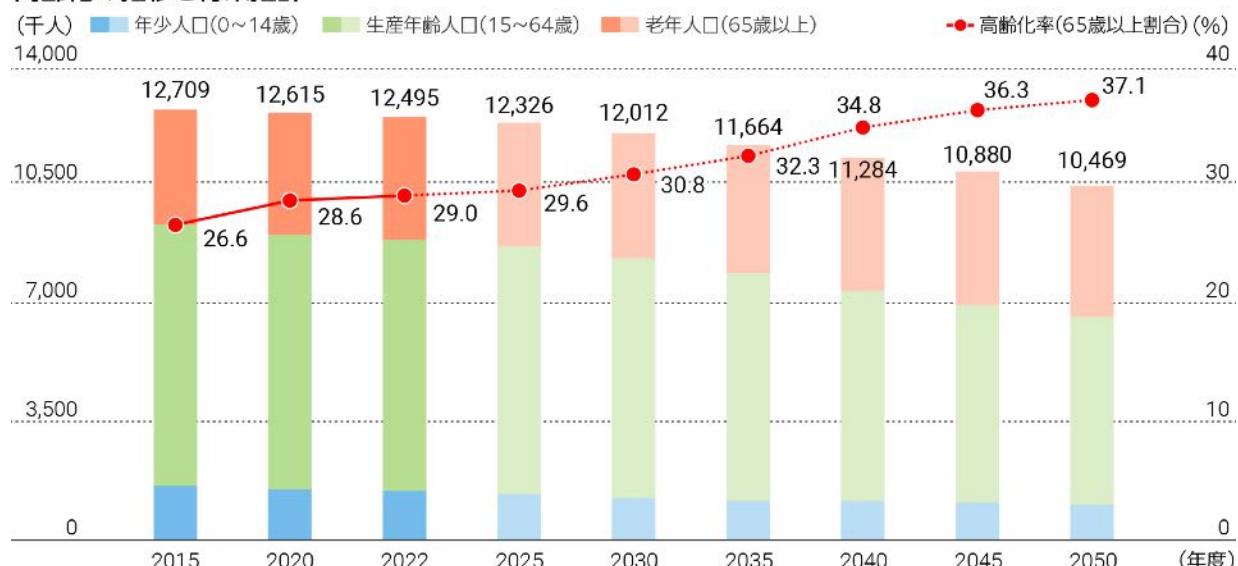
重点課題の背景

高齢化と生産年齢人口の減少

日本は出生率の低下とともに高齢化が進み、生産年齢人口が減少しています。老人人口は増大する一方、2050年には生産年齢人口が約5,540万人（2022年から25.3%減）に減少する※ことが予測されています。次世代の育成を支援していくことは、より良い社会を実現する上で重要です。

※ 出典：「令和5年版高齢社会白書」（内閣府）

高齢化の推移と将来推計



出典：「令和5年版高齢社会白書」（内閣府）

女性活躍支援

生産年齢人口が減少する中、女性の活躍推進は必要不可欠です。しかし、子育てと仕事の両立ができない、子育て後に就職ができないなど多くの理由で働きたくても働けない女性も多くみられます。また、日本では管理職に占める女性の割合は、役員では21.1%、部長相当職では8.0%、課長相当職では11.6%、係長相当職では18.7%※と世界に比べても低いため、高い能力を持つ女性が活躍できるような社会にしていくことが課題となっています。

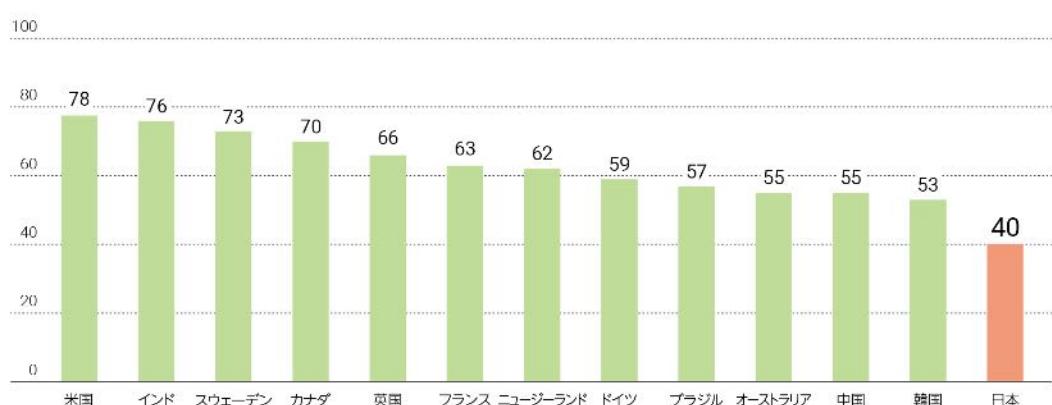
※ 出典 「令和4年度雇用均等基本調査」（厚生労働省）



異文化に対する受容性

自分とは異なる文化に対しての受容性を複数の国で比較すると、特に日本のスコアは低い状態にあります。多様な人々が活躍できる社会を目指すためには、異文化に対しても認め合うことが課題となります。

異文化に対する受容性



文化の受容性について、以下の要素からスコアリング

- ・社会の文化多様性
- ・自国民の反応
- ・官僚主義の程度
- ・移民者的人口
- ・人種差別
- ・移民に関する政策
- ・宗教に対する耐性
- ・雇用者の受容性

(注記)Institute of Technology and ScienceのVijesh Jainによる異文化に対する受容性(Comfort with Foreign Cultures)に関する研究に基づく
出典: Vijesh Jain, Multinational Workplaces: War of Culturally Seasoned Minds, 2015

SDGsへの貢献

この重点課題に取り組むことで、セブン＆アイグループはジェンダー平等を含む多様な人々の活躍を支援し、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5、10の達成に貢献します。



セブン＆アイグループの取り組み

[次世代育成の支援>](#)

[未来世代との取り組み>](#)

次世代育成の支援

セブン&アイグループは、核家族化や少子化が進み、子育てについて相談できる機会が減少する中、気軽にご利用いただける店舗でのイベントや、教育機関などと連携した取り組みを通じて、未来を担う次世代の健やかな成長をサポートしています。



マタニティ・育児相談サービスの提供

イトーヨーカ堂は、保健師や助産師の資格を持つ相談員が妊娠中の健康や育児について無料で相談を承る「マタニティ・育児相談室」を設置しています。各施設では、おむつ交換台や授乳用個室、ミルク用給湯器、子ども専用トイレなどを備えた休憩室をご利用いただけます。また、相談員が地域の行政で実施している支援についての情報を収集し、利用者の方への情報提供も行っています。

マタニティ・育児相談室

2022年2月末	2023年2月末	2024年2月末
100店舗	98店舗	95店舗



育児に関する相談窓口

イトーヨーカ堂の育児相談件数（利用者の実績）

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
224,552件	111,326件	137,559件	146,210件※	145,815件

※新型コロナウイルス感染拡大による「外出自粛」「店舗判断による一時休室」や「閉店」「構造改革による閉室」が影響しているものの、1店舗あたりの相談件数で見ると2021年度以降は継続して増加しています

さまざまな企業との共創による妊娠・出産・育児の支援

赤ちゃん本舗は、妊娠・出産・子育ての社会課題の解決に向けて、さまざまな企業と一緒に取り組む「with akachanhonpo」共創プロジェクトを推進しています。例えば、心とからだのケアでは、誰でも助産師に気軽に聞けるように、X（旧twitter）上にコミュニティの場を開設したり、助産師監修の専門的なコンテンツを無料で提供しています。また、親子の食事における課題解決や思い出作りのサポートなど、新たな価値を提供し続けています。

このように企業の枠を超えることで新しいものやサービスが生まれ、これまでにない価値を提供できるようになりました。



with akachanhonpo

子育て支援イベントの開催

イトーヨーカ堂は、子育てのアドバイスや保護者同士の交流を目的としたさまざまなイベントを開催しています。例えば、「産官学が連携し、家庭で楽しめる」をテーマに、大学や自治体、複数のお取引先様と連携し、母親の健康維持・増進・リフレッシュ・子育てに役立つ情報提供を目的としたイベントを開催し、イベントを通じて地域の皆様の子育て支援の輪を広げる活動に取り組んでいます。

また、2021年から新たに親子で楽しく学べる「ちびっこ職場体験ツアー」を開催しています。このツアーは、イトーヨーカ堂での職場体験を通じて、お客様のご満足を追求した店づくりや、衛生管理、環境に配慮した取り組みなど、SDGs（持続可能な開発目標）の視点で学んでいただけるイベントです。

2023年度は、イトーヨーカ堂の125店で実施し、お子様と保護者の方を合わせて約2,500人にご参加いただきました。



SDGsの視点で学べる「ちびっこ職場体験ツアー」

キャリア教育の支援

セブン&アイグループは、小・中学校や高校、大学でのキャリア教育を支援するため、学校からのご依頼に応じて、各校への社員の派遣や、職場見学、店舗において身近な店内業務を経験する職場体験に協力しています。

「品川スチューデント・シティ」に出店

セブン-イレブン・ジャパンは、2003年から東京都品川区と公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が協業で開催している「品川スチューデント・シティ」に出店しています。これは小学校の中に仮想の街をつくり、さまざまな企業が出店する中で、就業および社会体験の機会を提供するものです。子どもたちは、セブン-イレブン店内で接客から売場づくりなどを体験することで社会の仕組みを学びます。



品川スチューデント・シティ

› 経済活動体験「スチューデント・シティ」についてはこちら

店舗での職場体験

イトーヨーカ堂は、教育機関から児童・生徒・学生の職場体験を受け入れています。店舗での食品加工作業の見学や売場での商品の陳列などを体験する場を提供するほか、試食販売などを通じて、提案内容を自ら考えて表現することの楽しさや、安全・安心を守るために基本項目を守ることの大切さを体験していただいています。

重点課題4 多様な人々が活躍できる社会を実現する

研修センターでの職場体験

セブン＆アイグループの研修施設、伊藤研修センターでは、売場づくりや食品加工を体験していただくほか、車いすのお客様への対応など、さまざまなお客様の立場に立った対応について実際に体験学習する機会を提供しています。それらの体験を通じて、働くことの意義やお客様に接する喜びなどを感じていただけるように努めています。



伊藤研修センターでのレジ接客体験学習

企業と学校の交流

セブン-イレブン・ジャパンは、企業と学校の交流を図る「読売教育ネットワーク」の一環として、出前授業を開催しています。児童たちには、グループワークを通じてセブン-イレブンの社会的役割を楽しく理解していただいている。同時に、社会環境の変化やお客様のニーズの変化に合わせて「近くで便利なお店づくり」を目指すセブン-イレブンの商品・サービスがどのように変化してきたか（CRM戦略[※]やSDGsへの対応など）を学んでいただき、児童にとってコンビニエンスストアという身近な存在から社会を考える良いきっかけにもなっています。また、セブン-イレブン・ジャパンは、全国各地にある身近なセブン-イレブンの店舗を通じて、未来を担う子どもたちがSDGsに関連した社会課題を知り、その解決方法を考え実際に行動するきっかけとなる独自の出張授業をホームページで受け付けています。

※CRM : Customer Relationship Management = 「顧客関係管理」

(顧客満足度と顧客ロイヤルティの向上を通して、売上の拡大と収益性の向上を目指す経営戦略/手法)



出前授業の様子

無料絵本「森の戦士ボノロン」を通じた支援

セブン銀行は、やさしさや勇気など、心温まるボノロンの世界が未来の子どもたちの心豊かな成長の糧になると想いをもって、2005年からフリー絵本『森の戦士 ボノロン』に協賛しています。年間約300万部の絵本の発行や無料配布[※]のほか、大型絵本を制作して子どもたちに読み聞かせ会を実施するなど、開始以来18年間に渡って親子のコミュニケーションの促進と子どもたちの健全な育成に貢献しています。

※日本中の子どもたち、お母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんが気軽に手に取ってもらえるように、全国のセブン-イレブンやデニーズ、赤ちゃん本舗の店舗で偶数月の15日に無料で配布しています



従業員による絵本の読み聞かせ会

食育の支援活動

セブン＆アイグループは、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識を伝え、健全な食生活を実践することができる人を育てるために、次代を担う子どもたちに「食育活動」を推進しています。

例えば、セブン＆アイ・フードシステムズが運営するデニーズの一部の店舗では、定期的に「おこさま食育スクール」を開催しています。「お箸の使い方」や「ナイフ、フォーク、スプーンなどの使い方」のお話、食べる時の姿勢など基本的な作法を学ぶ「マナー」と旬の野菜などの「食材」をテーマにパネルを使った説明など、クイズを交えて楽しく学べる場となっています。2020年からは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面開催を自粛し、オンライン会議ツールを使用した“食育スクール”を開催しています。

また、イトーヨーカ堂の一部店舗では、店内に設置されたキッチンサポートにおいて、調理実演やメニュー提案を見ていただきながらバランス良く食べることの大切さや、食を通じてひなまつりなどの伝統文化を学ぶ食育イベントを定期的に実施しています。



おこさま食育スクール

多様な人々とのコミュニケーションのポイントを学ぶD&I研修の実施

セブン-イレブン・ジャパンは、高齢者や障がい者、外国人など、多様なお客様や従業員とのコミュニケーションのポイントを学ぶ機会として、店舗勤務の社員を対象に「D&I研修」を実施。講義やグループワークを通じて理解を深めています。また、講習の一部では、厚生労働省が開催する「精神発達障害者しごとサポーター」を取り入れ、2024年2月末までに255名が受講しています。今後も一人ひとりが多様な人々と向き合い、より良いコミュニケーションを心がけ、すべての人が暮らしやすい社会づくりを推進していきます。